

令和7年4月16日

保護者 様

愛媛大学教育学部附属小学校
校 長 池野 修

教育活動についてのお知らせ ー令和6年度学校評価の結果を踏まえてー

陽春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、愛媛大学は、大学憲章で「自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを最大の使命とする」と謳っています。これは、愛媛大学附属学校園においても、貫かれる理念です。

本校では、この理念の下、子ども一人一人を「知」「徳」「体」の調和がとれた人間に育てるために、全人的な教育を行っています。また、毎年、様々な評価活動を行いながら、その改善を図っています。昨年度も、『学校評価ガイドライン』（文部科学省）に沿って、皆様に協力いただいたアンケートをはじめ、子どもたちの学習や生活についての意識調査、生活実態調査、学力検査などを基に、【自己評価】を行いました。また、学校関係者や教育の専門家の立場からご指導をいただく【学校関係者評価】や【第三者評価】を行いました。それらの結果の概要をお知らせいたします。これまでいただいた評価を生かしながら、子どもたちのよりよい成長を目指して取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

1 学校の教育目標

学校の教育目標を、「自己を拓き、ともに生きる児童の育成」とします。この教育目標は愛媛大学附属学校園の教育理念を基に、附属学校園間で検討を行い、幼稚園、中学校、高等学校や特別支援学校の連携を踏まえたものになっています。5校園共通の教育理念「未来を拓く人材の育成」の下、大学などとの連携を強化して、その実現に向けた教育を、発達に応じて行います。

本校では、学校の教育目標の実現に向けて、昨年までの教育活動を踏まえ「確かな学力（知）・豊かな心（徳）・健やかな体（体）の調和がとれた人間を育てること」「自律しつつ自分のよさを伸ばしていくとともに、自分を取り巻くもの・こと、ひとと共に生きていくことができる人間を育てること」を大切に考え、教育活動を行っています。

こうした本校の考え方に対し、昨年度、100%の保護者の方から「よい」の回答をいただきました。こうした評価は、毎年、入学説明会でお伝えしている本校の教育方針にご賛同いただいた上で子どもを通わせていらっしゃるからだと考えます。また、学級PTAなどで説明している学校の教育目標の実現に向けた様々な教育活動について、ご理解をいただいているからだとも考えます。

そこで、本年度もこの目標の下で、「探究心をもって、自然や社会、文化などとかかわり合い、学びを楽しむ子ども」「目標の実現に向けて、自省しながら学び続けようとする子ども」「集団の一員としての自覚をもち、他者と理解し合って生きようとする子ども」を育てていくことを目指し、大学、附属学校園が連携して、教育活動を構想し、実践していきます。

2 学習指導

大学などと連携して研究や研修を深め、子どもが多様な経験やかかわりを通して学びを深められるよう、努力をしていきます。

本校の学習指導に対し、昨年度、全校で98%の保護者の方から「よい」という回答をいただきました。「『様々な工夫にあふれた授業』『体験・経験がたくさんある』のがよい」との声も多くいただきました。

子どもの意識調査でも、授業を「楽しい」と感じている子96%、授業で「わかる・できる」ようになっていと感じている子96%、友達と一緒に学ぶよさを感じている子98%と、高い水準にあります。また、第6学年で行った全国学力・学習状況調査や、全学年で行った学力検査（CRT）の結果も、全国平均を大きく上回っていました。

学校関係者評価委員や第三者評価委員の方からも、本校の授業の質の高さ、授業研究の充実ぶり、その成果としての子どもの育ちについて、十分な評価をいただきました。今後も、更なる向上を目指してまいります。

この他、外部評価において、「さらに多様な授業形態を探る」「発言の少ない子どもをどう評価するか」についてご意見をいただいています。これらのご意見も大切にしながら、更に授業内容の充実を図っていきたいと考えています。

3 生活指導

自他や生命を尊重する心を育てるとともに、基本的な生活習慣や社会性、規範意識を身に付けさせる指導を、家庭や地域と連携して更に徹底していきます。

本校の生活指導の有り様に対して、昨年度、全校で98%の保護者の方から「よい」の回答をいただきました。その具体的な理由として、縦割り班による活動がよい形で機能し、社会性の涵養につながっていることなどが挙げられています。

学校関係者評価委員や第三者評価委員の方からも、実際に本校の子どもたちの学校生活の様子をご覧になった上で、本校の生活指導への取組に対して十分な評価をいただきました。

しかし、公共の乗り物を利用する際のルールやマナーが守られていないことについて、地域の方からご指摘を受けることがあります。学校と家庭がそれぞれ当事者意識を持って指導に当たることが重要だと考えます。

子どもの意識調査では、学年が上がるに連れ「自信」や「積極性」への自己評価が低下する傾向にあるのが気になることです。ただ、これは「できていない」というよりも、高学年としての役割を強く意識していることや、自分を客観的に見詰めて自己評価する力が育ってきていることも要因と考えられます。一方、「学級や学校への所属感」「協力」という項目については、経年比較で高い傾向になっています。自分の力を発揮し、認め合いながら、次なる課題に挑戦するというスパイラルが成立するよう、学習や生活の取組に工夫を持たせていきます。

生活指導については、学校での指導はもちろんですが、家庭や地域の協力が必要です。これまで以上に連携を図り、互いが状況を正しく認識しながら、子どもの心身をより望ましい方向へと導いていきたいと思ひます。ご協力をお願いします。

4 安全管理・指導

環境整備や危機管理体制を充実し、子どもとともに、安全・安心な学校づくりを更に進めるとともに、危険予測・判断・回避能力を高める指導を進めます。

昨年度、全校で98%の保護者の方から「よい」の回答をいただきました。近年進めてきた、4校園合同の避難訓練の実施、引渡し訓練の実施、警備員の配置、PTA社会教育部の方々による献身的な登下校の見守り活動など、本校の安全に関する取組を評価していただいているものと思われまます。

学校関係者評価委員や第三者評価委員の方からも、近年の校内環境の改善の様子や4校園による避難訓練などの実践的な取組を評価していただいております。一方、「防災の視点に立った授業の充実」「防災に終わりはない」という声もいただきました。それらを踏まえ、今後も、安全・安心な学校づくりに努めるとともに、子ども自身の危険予測・判断・回避能力を高める指導を重ねてまいります。

5 連携

情報発信・受信のシステムを整備するとともに、子どもの健全な成長を願って、保護者はもちろん、附属学校園や大学、関係諸機関との連携を更に密にしていきます。また、PTA活動の見直しと活性化を図っていきます。

学校と保護者との連携については、昨年度、全校で97%の保護者の方から、「よい」の回答をいただきました。しかしながら、デジタル化により保護者と教員との双方向のコミュニケーションが希薄になることを危惧する声もいただきました。学校としては、これまでどおり、電話や面談など双方向のコミュニケーションも大切にしていきます。

子どもを健やかに育てたいという願いは、保護者の方々も教師も同じです。情報交換を密にしながら、共に力を合わせて、より望ましい指導を目指したいと思います。相談しやすい学校、信頼される学校となるようにしたいと考えています。

PTA活動については、74%の方にご支持をいただいています。執行部の方を中心に、新しい取組を企画したり、活動の様子を折に触れてHPで公開したりするなど、つながりの強化に努めてくださっています。更に改善を図りながら子どもの健全育成のために気軽につながり、子育てにプラスになるPTA活動にしていきたいと考えています。これまで以上に、互いに助け合い、支え合うことのできる附属小学校PTAとなるよう、どうぞ、ご協力をお願いします。